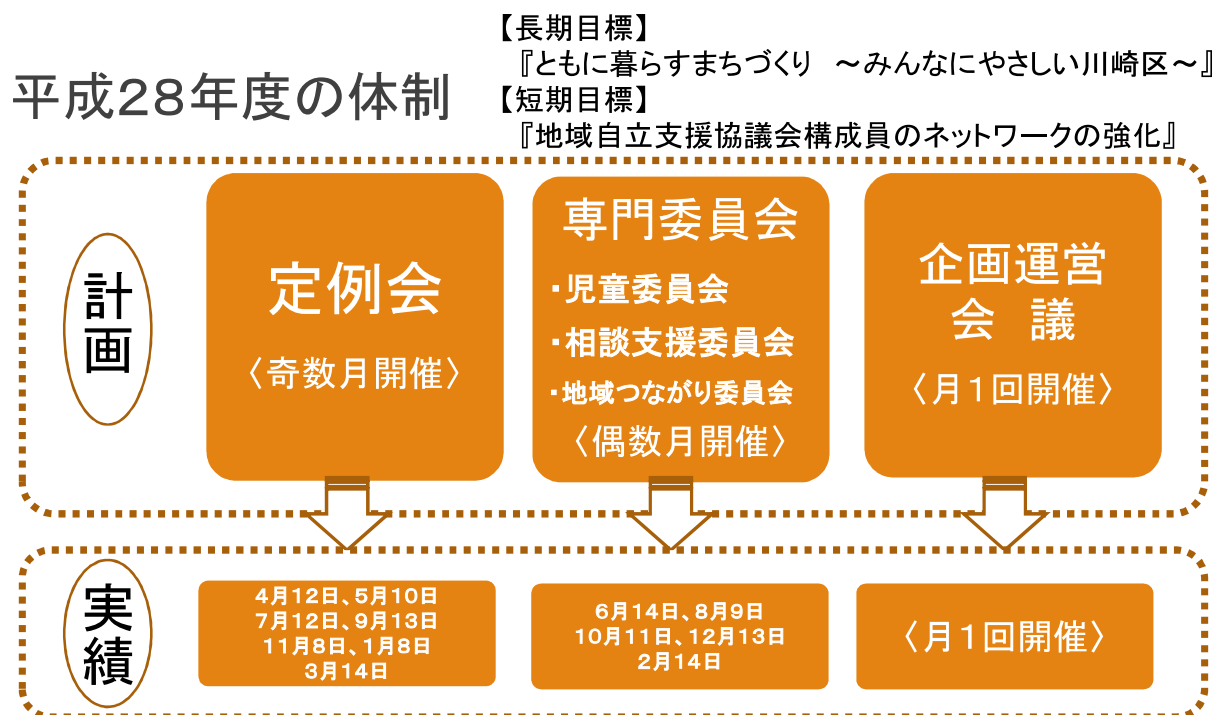


平成28年度 川崎市地域自立支援協議会について

平成29年3月16日(木)

第3回川崎市地域自立支援協議会全体会議



定例会 【活動内容】 構成員間のネットワーク作りの活動、各専門委員会の活動報告

①課題抽出意見交換会(7月、11月)

(第1回)実施日 7月12日

内 容 ・平成27年度までの課題についてのフィードバックと精査及び優先順位の検討
・新たな問題の抽出

(第2回)実施日 11月8日

内 容 ・第1回で抽出した問題の整理、課題提出票の作成
・新たな問題の抽出

定例会 【活動内容】 構成員間のネットワーク作りの活動、各専門委員会の活動報告

②1月20日開催

「地域包括支援センターと企画運営会議の話し合い」

今年度は協議会定例会として実施せず、企画運営会議との話し合いに変更し、開催。参加者は26名。

地域包括支援センターと地域自立支援協議会企画運営会議の説明後、3グループに分かれ、地域づくりについて、それぞれが現在取り組めていること、今後の課題、今後連携できそうなことを話し合った。

定例会 【活動内容】 構成員間のネットワーク作りの活動、各専門委員会の活動報告

③研修会(9月)

(第1回)実施日 9月13日

内 容 ・成年後見制度について
・「かわさき障害者福祉施設たじま」見学会

(第2回)実施日 2月9日

内 容 市民向け研修会
「目の見えにくい人のことを知ってみよう」
講義と体験を交えながら、視覚障害についてや
街で見かけた時の声掛けの仕方等を学ぶ

専門委員会① 【児童委員会】

【長期目標】
『教育機関等との情報共有』
【短期目標】
『支援者への情報発信』



「川崎区障害児支援機関一覧表」の作成

- ・「支援者が知識を持ち、相談を適切に受けられること」を目的とした支援者用冊子
- ・12月より手渡しや郵送等により配付を開始
- ・今後に活かすため、アンケートを同封
- ・配布先 児童関係事業所、教育機関、相談機関 等
発行部数 約250部

専門委員会② 【相談支援委員会】

【長期目標】
『つながり上手になる』
【短期目標】
『事例を通してつながり方を共有する』

各分野からの事例紹介の実施

～具体例を通してつながりを考えていく～

8月、10月、12月の3回、事例検討を行う中で、繋がり方がうまくいった場合と難しかった場合等の紹介を行った。



専門委員会③ 【地域つながり委員会】

【長期目標】
『市民の声を聞き・つながり、支え合える地域づくりを目指す』
【短期目標】
『地域の資源を知り学ぶ』

11月 福祉まつり参加

※相談ブース、視覚障害者向け用具の体験コーナーの設置、自立支援協議会の広報活動等

2月 市民向け研修会の開催

※「目の見えにくい人のことを知ってみよう」

視覚障害や支援の仕方について体感してもらう

機会を設けた。参加者 31名



平成28年度 幸区地域自立支援協議会

平成29年3月16日(木)
第3回川崎市地域自立支援協議会全体会議

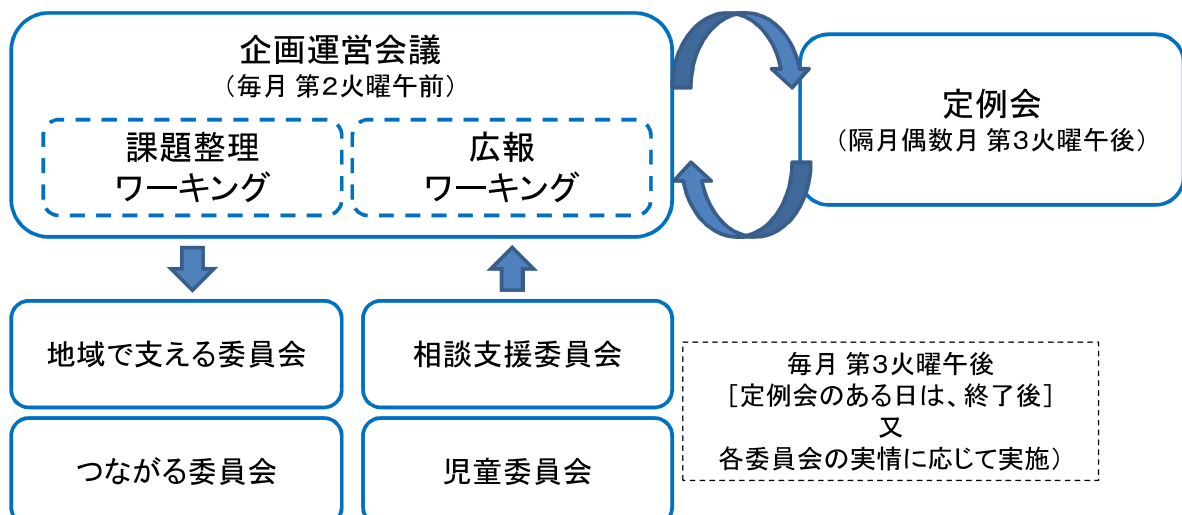
平成28年度 幸区地域自立支援協議会体制①

長期目標(期間:平成29年度～30年度)

- 顔の見える関係で地域が連携し、暮らしやすさにつなげる

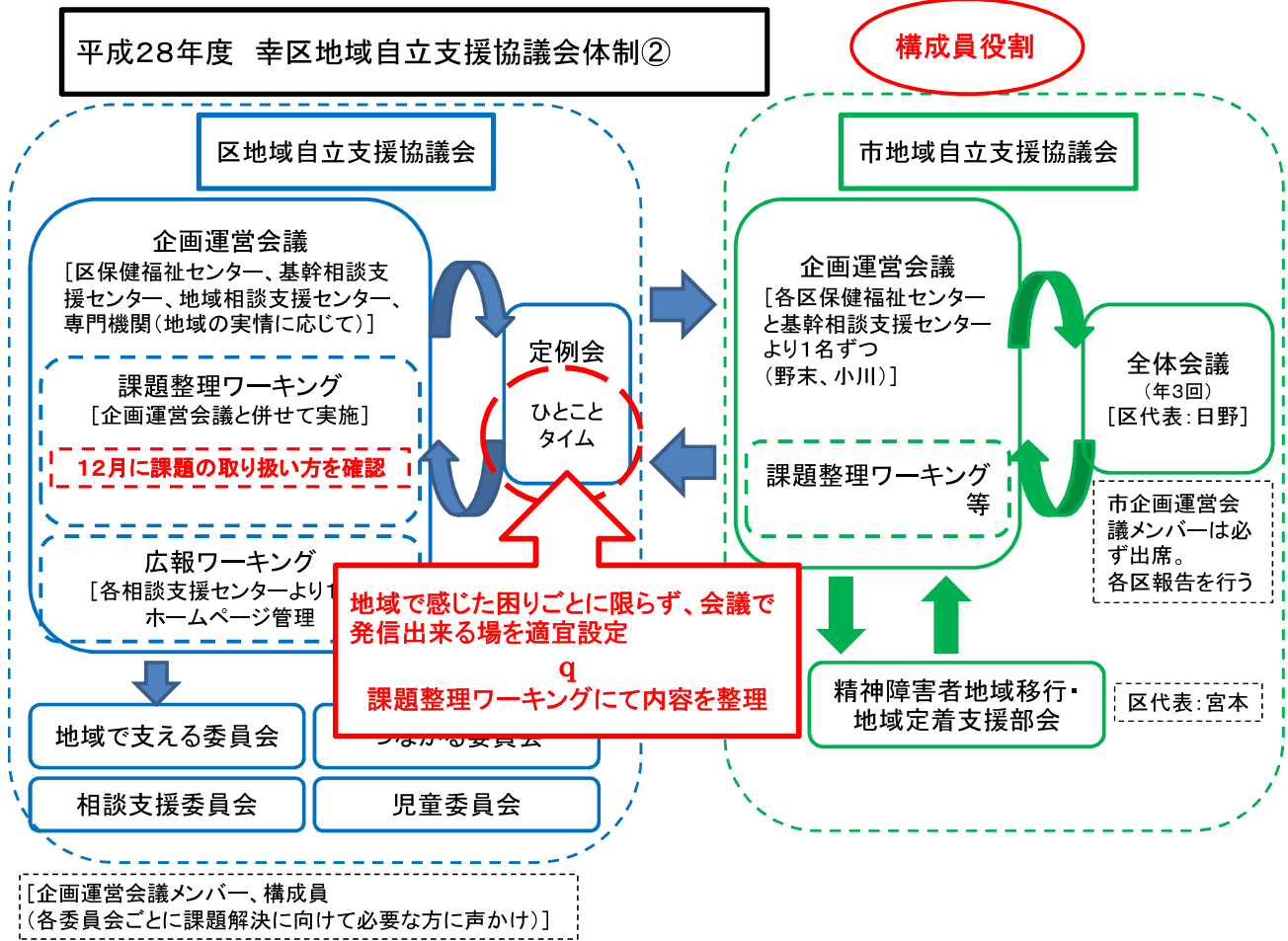
年度目標(期間:平成28年度)

- 構成員全員が協働しながら、地域の実態や課題等の情報を共有する



平成28年度 幸区地域自立支援協議会体制②

構成員役割



地域で支える委員会

[地域課題]

高齢、障害その他、地域の複雑な課題を抱える事例、埋もれている事例について、関わった支援者が個々で動いてみたけれど、抱え込んでしまう

↓
『地域で支え合う仕組み』(夢見ヶ崎地域包括エリアで実施)
≪支援者支援の視点≫

活動目的

- ・高齢・障害他複雑な問題を抱えていたり、地域で埋もれているケースについて、支援者が個々で抱え込まず必要な関係機関とつながっていくための仕組みを考える。

長期目標

- ・個々で抱えている支援者の課題解決につながるようなツールや仕組みを作る。

短期目標

- ・多機関連携ケースを出し合い、地域資源として利用できるものを洗い出す

今年度取り組み

- ・委員会構成員より事例報告(3回)。多機関との連携等で円滑に進んだこと、難しかったこと等、意見交換を通して原因や理由を共有し、情報を蓄積した。
- ・検討してきた事例を分析し、様々な機関が介入するタイミングや支援方法が共有でき、他の機関がなぜ動くことができたのか、動けなかったのかなどの疑問が解消できて、連携しやすくするための仕組みを考える土台ができた(地域で支える仕組みを考えた1年間)。

今後の方向性

- ・1年間検討した仕組みを地域にどのような形で生かしていくかが今後の課題
- ・今年度取りまとめた内容を試行していくことと、事例検討で出た連携のエッセンスを発表する機会を検討する予定

つながる委員会

[地域課題]

・本人(の状態)に合った福祉施設を利用できているのかの検証が難しい。福祉施設の特徴(情報)が整理しきれていない。

↓

『社会資源の横のつながり』(サビ管同士の連携)

[地域課題]

支援が必要だが、まだ支援が届かない・知らない人が地域に多くいる。

『地域の小さな情報が入りやすい雰囲気、ネットワーク作り』

(民生委員児童委員、地区社協への働きかけ)

活動目的

- ・地域ネットワーク構築のための企画を行う

長期目標

- ・地域ネットワークの土台を作る

短期目標

- ・地域がお互いの活動を知る。協議会を知ってもらう。

今年度取り組み

地域情報を知り、協議会の活動(主旨)を知ってもらうことで、地域ネットワークにより円滑に支えていく土台作りを行った。

- ・幸区社会福祉協議会事業報告の実施
8月定例会にて実施。社協担当者とのつながり。
- ・民生委員への協議会周知
地域包括支援センターと情報交換。民生委員と顔の見える関係になるには時間が必要。
- ・幸区サービス管理責任者(生活介護)との交流会実施
12月 セルブきたかせにて実施。お互いの活動紹介、事例検討。



今後の方向性

- ・社会福祉協議会と情報交換ができる関係の継続(協議会構成員への働きかけ)
- ・民生委員への相談支援センターの継続的周知(平成27年度には実施済み)
- ・サービス管理責任者同士における自発的交流に向けての働きかけ
- ・新たな課題への取り組み(地域ネットワーク構築のための調査など)

相談支援委員会

[地域課題]

相談支援を巡る課題は多岐にわたっている。課題の洗い出し、整理から開始。8月に課題提出表を提出。

『計画相談を立てる事業所の数が少ない為、計画相談を受けられない人がいる』

活動目的

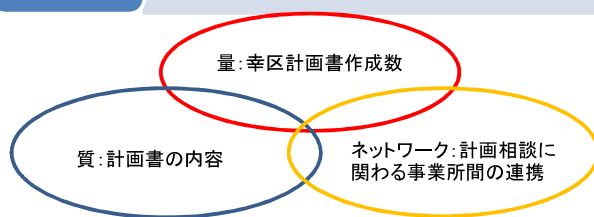
- ・計画相談がスムーズに行われる仕組みを作る

長期目標

- ・3つのカテゴリーの充実から、幸区の計画相談支援の充実を図る

短期目標

- ・課題の洗い出しの場を設定し、各カテゴリーの課題を抽出する



今年度取り組み

- ①9月 新規開設の指定特定相談支援事業所3ヶ所訪問。計画相談の課題等の聞き取り。
- ②11月 委託相談支援センター4ヶ所集まり、計画相談の課題について聞き取り。
- ③1月「幸区相談支援事業所意見交換会」開催。委託相談4ヶ所、指定特定相談支援事業所6ヶ所、障害者支援係が集まり、幸区内の計画作成の実情を情報共有。疑問や意見等を、グループワーク形式で話し合い。普段から、計画作成時等に相談しあえるような、顔の見える関係作りを目指していく事を確認。
- ④2月「障害児相談支援を知ろう」をテーマに、南部地域療育センターの児童相談支援の取り組みについて勉強会開催。



今後の方向性

今年度取り組んだ内容を基に、課題を明らかにし、より具体的な取り組みを進めていく(3つのカテゴリーについて、より促進させていく)

児童委員会①

[地域課題]

学齢期に支援が必要と思われるエピソードはあるが、社会に出てからつまづく等、生活の立て直しが困難。

↓

『学齢期における教育と福祉の連携』

活動目的

- 学齢期における教育と福祉の関わりを広げる

長期目標

- 幸区内特別支援教育コーディネーターとの連携

短期目標

- 幸区内教育関係者への発信

今年度取り組み

- 療育手帳保有数実態把握
区内療育手帳保有人数、高卒までの手帳取得人数を年代別データ確認。年齢が高い人は18歳以降に取得する割合が多い。
- 御幸中学校通級指導教室見学、先生との意見交換（2月）

今後の方向性

- 学齢期における学校と福祉の連携のできることの検討（区内中学校特別支援教育コーディネーターとの関係作り）を行う

児童委員会②

[地域課題]

父親が子育てに関わる機会が少なく、父子関係に影響したり、父親の力が発揮できない

↓

『父親相互の横の連携を図り、父親の力を高める』

（父親と障害のある子供たちのふれあい）

活動目的

- 父親相互の横の連携を図り、父親の力を高める

長期目標

- 父親同士が語り合える場を設定し、つながりを作る

短期目標

- 父親が子どもと気軽に参加できる場を設定し、父子の触れ合う機会を作る

今年度取り組み

- 9月 施設見学会（土曜）[障害者福祉施設たじま]
昨年度サッカーイベントでのアンケートを基に実施。
- 11月 お父さんと障がいのある子どもたちのふれあいサッカーイベント（土曜）[川崎フロンターレ協力]
父親同士で懇談。家庭での役割、子どもと接する上で工夫している事など、情報共有。連絡先交換。
- 3月 施設見学会第2弾（土曜）[就労移行支援事業所]
サッカーイベントでのアンケートを基に実施。参加父親から参加の声かけ。父親同士で懇談。



今後の方向性

今年度活動を基本に、父親同士が語り合える場を設定し、横の連携、つながりを持てるようにする

平成28年度

中原区地域自立支援協議会

平成29年3月16日（木）
第3回川崎市地域自立支援協議会全体会議資料

平成27年度 中原区地域自立支援協議会 テーマ 「つながろう中原」

○中原区事業所連携委員会

- ・中原区内の障害に関連するサービス事業所の紹介出来る冊子を作成。

平成27年度は試作段階として協議会に参加している構成員が自身の所属事業所を紹介したものを冊子としてまとめ、配布しました。

○普及啓発委員会

貸して安心ガイド 区内の“神奈川県あんしん賃貸住宅”協力店となっている不動産屋さんを回り「貸して安心ガイド」についてのアンケートを実施

当事者活動の側面支援として「なかはらファミリー」開催に当たり、実行委員の想いが活動に反映されるようサポートスタッフとして活動を後方支援しています。年3回実施し、10名前後の参加者

広報誌の作成

普及啓発活動の一環として、広報誌「なかはら楽通信 創刊号」を作成しました。

○長期目標（平成28～29年度）

「中原区地域自立支援協議会の体制作り」

○短期目標（平成28年度）

「中原区内の事業所の役割を知り、伝える」



短期目標の達成状況については
各専門委員会の活動と併せて
ご報告します

平成28年度 中原区地域自立支援協議会

企画運営会議

(月1回：区役所・
委託型相談支援センター)

研修

広報

福祉まつり

なかはらファミリー

とりまとめ：企画運営会議担当者
(実行委員は各専門委員会より選出)

定例会

(年4回程度：構成員全員)

児童委員会

事務局 区・委託

相談支援委員会

事務局 区・委託

普及啓発委員会

事務局 区・委託

開催頻度：各専門委員会で
実情に応じて検討

児童委員会

【短期目標】

- ・ 中原区内の配慮の必要な子どもたちの放課後を知る

【長期目標】

つながる、広がる、支え合う

【第2回までの取り組みと報告内容】

- 児童期の課題として、配慮の必要な子ども（とりわけ特別支援学級在籍児）の保護者の中でも多くの情報に接することのできている保護者とそうでない保護者との間で情報格差が生じているなど、保護者に支援機関やその利用の仕方が周知されていないことなどが出された。そうした課題を受け、保護者などへの適切な情報提供の一環として、
⇒ 配慮の必要な子どもの放課後の居場所や利用可能な制度・サービスを調べ、展示物を作成。中原区の **福祉まつり**（H28年11月5日）にて、広報・周知活動を行った。
- 同じく構成員から、放課後等デイサービス事業所の新規開設が相次ぐ中で、利用の仕方や上限管理等について混乱が生じているとの問題を受け、中原区内の放課後等デイサービスの事業所に声をかけ、**中原区放課後等デイサービス連絡会**を開催（第1回：平成28年9月12日、第2回：平成28年10月17日）
⇒ 区内の14事業所から参加があり、さまざまな意見交換や課題の共有を行えた。

【第2回以降取り組み内容と次年度に向けて】

- 保護者などへの適切な情報提供のため、展示内容の更新を行いながら次年度も継続して、福祉まつりなどの機会を通じて、広報・周知活動を行っていく。
あわせて、他区の児童委員会で作成された冊子等を参考にさせていただきながら、**中原区の配慮の必要な児童が利用可能な制度や関係機関等が掲載された冊子作成につなげていく。**
- **放課後等デイサービス連絡会の開催**を通じて、中原区内の放課後等デイの事業所と相談支援センターが顔見知りの関係になったことにより、放課後等デイの事業所から直接相談支援センターへ相談の連絡が入るようになるなど、連携が取りやすくなった。利用日数の調整や児童の情報共有の仕組みなど、こうした連絡会の開催を通じて浮かび上がってきた課題を協議会の児童委員会の活動につなげていきたいと考えているが、連絡会に参加した各事業所の方々が児童委員会の新規構成員になるという流れには至っていない。その一方で、放課後等デイの事業所から次回の連絡会開催を期待する声があがっており、H28年度中に各事業所へアンケートを取り、どのような場や機会として連絡会の継続開催を希望されているのかを把握しながら、次年度の活動につなげていく。

相談支援委員会

【短期目標】

事例を通して相談支援従事者の関わり方（姿勢）を検証する

【長期目標】

中原区内の相談支援体制の標準化をめざす

【第2回までの取り組みと報告内容】

- 意見交換
「それぞれの立場から相談支援とは何かを考える」
「相談支援事業所の考える相談支援」
「各事業所の現況の報告」
 - 事例検討
事例検討を実施し出てきた問題より、委員会の取り組みの内容を具体化する。
相談支援専門委員会として事例検討の中から以下の3点を課題提出票に落とし込みの作業を行なうことになった
- ① 児童相談所について知る。
 - ② 児童期から成人期への移行時に支援が途切れる。繋がらない。
 - ③ 支援機関が情報共有するためのツールがない。

- ・ 事例検討の中から上記の3点を検討事項として挙げ
今後、課題を課題提出票に落とし込みの作業を行なう。
- ・ 個別支援の検討を重ね、課題提出票に落とし込む作業の中で、必要な際には児童委員会や普及啓発委員会にも協議を依頼、意見交換の機会を設けることも、検討する。

【第2回以降取り組み内容と次年度に向けて】

- 課題提出票の落とし込み作業を通じて、以下2点の活動に繋がった。
①引き継ぐ際に必要な情報や不要な情報について
②相談の仕方を工夫することで、みまもり支援センターが身近な地域の社会資源であることが明らかとなった。みまもり支援センターとのつながり方について手立てを協議。
- 平成29年度の活動に向けて
①協議会構成員が基礎情報用紙のデータを共有。
中原区内の事業所で移管や、引継ぎ、事例検討などの情報交換の際には活用。
必要であれば、内容の見直しを図っていく。
②みまもり支援センターが支援の対象となる事例検討の際には、参加してほしい目的を明らかにしたうえで、参加を依頼する。一緒に検討を行い、必要に応じて助言していただき、支援機関同士が繋がる機会を持つ。
また、みまもり支援センターからも、可能な範囲で事例報告をしていただき、学ぶ機会を持つ。

普及啓発委員会

【短期目標】

中原区内の事業所について知る

【長期目標】

顔の見える関係性を作る

【第2回までの取り組みと報告内容】

○支援機関より「中原区内の障害者対象の事業所を知らないため、聞かれても自分が繋がっている他区の事業所を紹介してしまう。また、事業所の種類も多く、新規事業所も増えている。事業所毎にどのような特色があるのか分かると、支援側の立場としても紹介しやすい」という意見があがる
→中原区内の障害に関連するサービス事業所の紹介冊子「**なかしぎょナビ**」を作成

○「**なかしぎょナビ**」に掲載した事業所のうち、協議会構成員以外の事業所へ訪問。
事業所の日常を伺いながら、協議会として協議できる問題点なども聞き取れた場合は、課題整理表を活用し、課題整理ワーキングにあげ、検討を図る

【第2回以降取り組み内容と次年度に向けて】

○「**なかしぎょナビ**」を作成し、各事業所の活動内容を詳しく紹介することで、今まで以上に事業所への関心、理解を深めることができる機会となった。協議会に参加した構成員が、互いに協力しながら冊子作成に取り組むことにより、事業所間の繋がりをもてた。

○協議会の活動を知っていただくきっかけに繋がった。
実際に利用者の方がいらっしゃる場面を見学させて頂き、取り組み内容や事業所の特色等についてより理解を深めることができた。
事業所職員との顔の見える関係を築ききっかけとなった。

○平成29年度の活動に向けて

- ・事業所の職員と関係性を深め、連携をとりながら、地域の方々に協議会の周知を図る。
- ・障害を持つ当事者やそのご家族、事業所の職員等サービスについて学習会や研修会を企画、運営を行なう。

その他の活動

【なかはらファミリー】

当事者活動の側面支援として「なかはらファミリー」開催に当たり、実行委員の想いが活動に反映されるようサポートスタッフとして活動を後方支援しています。
今年度は年3回実施しました。

【研修】 12月16日（金）14:00～

テーマ「親亡き後を見据えて」
参加者（構成員以外） 34名

【広報】

「なかはら楽通信 第2号」作成
12月研修より配信！

【福祉まつり】

11月5日（土）中原区地域自立支援協議会の紹介。児童委員会から「中原区子育て支援ネットワーク」の紹介パネルも展示。

高津区地域自立支援協議会



長期目標（平成28～29年度）

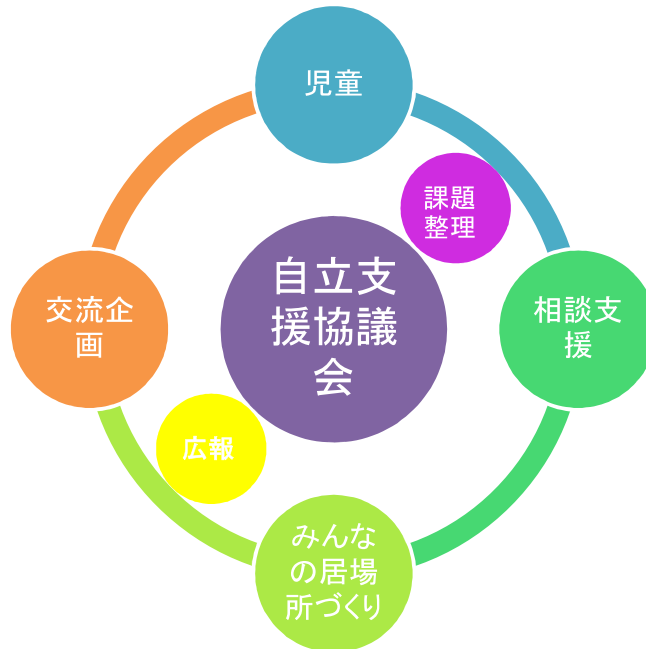
「知る 知らせる 理解する
・・・互いを知る 課題を知る 地域の力を知
る・・・」
から一歩踏み出そう！

～高津区の現状（課題と地域力）を共有し、
一緒に取り組めるつながりをつくる～



短期目標（平成28年度）

各委員会での目標を中心に、協議会内での委員会のつながり、取り組みを共有する



各委員会の目標・取り組み内容

相談支援委員会	地域移行の課題共有 病院との協力関係を継続
交流企画委員会	関係機関との連携強化 研修開催
みんなの居場所づくり委員会	イベント参加の継続・定着 当事者定例会の開催
児童委員会	抽出された課題から今後の 取り組み内容を検討

相談支援委員会

課題

高津区の入院患者全員が地域に移行することが進んでいない。

目標

- ・長期目標 地域移行・地域定着の促進をはかる
- ・短期目標 高津区の地域移行・地域定着の実情を知る

実施内容

- ・入院患者とお互いを知るための企画、立案
- ・構成員向けの研修を企画。

成果・今後の課題

【成果】地域に戻ったら、こんな相談員がいるんだということを知ってもらえた。地域機関の職員と顔の見える関係づくりをすることができた。
【課題】限られた時間のなかで、思いを知るというところまで至らなかった。来年度も継続していく必要があると考える。

ピアたちはなとハートフル川崎病院で実施されている懇親会に参加し、入院患者と顔の見える関係を作る（平成28年11月実施）
先駆的に地域移行・地域定着に取り組まれている東京都三鷹市の美立ちの会の方をお招きし実際に地域移行に対する取り組みを知る（平成29年2月実施）

交流企画委員会

課題

障害を持つ人とそうでない人との相互理解がすすんでいない。地域のまちづくりに当事者の声を届けたい。

目標

- ・（長期）福祉・教育・地域の連携を図り、当事者の方たちの思いを地域に発信する
- （短期）防災への取り組みを通じて、地域で生活する方と当事者の方との相互理解を深める

活動内容

- ・＜活動内容＞
- ・地域包括支援センター・まちづくり協議会・こころのバリアフリー推進事業等と一緒に、研修会の企画・立案。

成果と課題

【成果】各行事には当事者の参加者を募り、当事者の生の声を地域に発信することができた。各関係機関との協働行事を通じて、顔の見える関係を構築することができた。
【課題】当事者の困り感が地域で共有できているとは言い難く、今後も継続して取り組んでいく必要がある。

みんなの居場所づくり委員会

＜課題＞当事者がやりたいことをできない、地域に出る機会が少ない、自分の力を生かせる場がない。

＜長期目標＞ 活動の中で、少しずつ当事者が主体的にできることを増やしていく。

＜短期目標＞ 当事者が地域で関われるイベント参加の継続・定着や、当事者定例会を開催する。

＜実施した内容＞

- ・当事者の地域イベントへ参加
- ・当事者定例会の開催（8月・10月・12月・2月実施）

委員会発足当初は、誰もが集まれる場を作ることが目標であったが、当事者が参加し、話し合いながら進めてきたことで、集まれる場ではなく、誰もが地域に出ていき、地域全体を居場所とする方向に軌道修正ができた。

＜成果＞短期目標は、達成できている。当事者定例会において、参加者の希望を実行し、参加者同士の輪がひろがりつつある。
 ＜今後の課題＞取り組んできたこと（やってみたこと）をどう定着させていくか。

【地域】に当事者の顔を知ってもらう方法をさらに検討していく。

児童委員会

課題

放課後等デイサービス事業所の増加に伴い、利用者が複数の事業所を利用することで、連携した療育的アプローチが行いにくい。放課後等デイサービス事業所が増え、実態が把握できない。

目標

長期目標 **より良い療育のためのネットワークづくりを目指す**

短期目標 **高津区内にある児童発達支援事業所や放課後等デイサービスとの定期的な交流の機会を目指し、ネットワークを構築する**

活動内容

- ・他区や児童対象施設の状況確認
- ・交流会の内容の検討、実施

★成果★ゼロから準備し、年度内に2回交流会を実施できたことは成果と考える。出席した放課後等デイサービスの特徴等知る契機となった。出席した事業所からも好意的な意見が多く、ネットワークづくりの足掛かりとなった。

課題

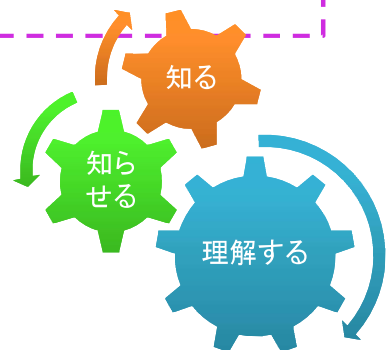
★今後の課題★交流会については、いずれは事業所側の自主運営を目指したいが、現状ではその段階には至っていないため、次年度も児童委員会が間に入って交流会について検討・実施が必要である。次年度も事業所側が継続して参加したいと思えるようなテーマ設定や時期などが今後の課題である。

短期目標への取り組み

- 5月 定例会で、各委員会の今までの活動報告実施
- 10月 相談支援委員会・
みんなの居場所づくり委員会の活動報告
- 11月 交流企画委員会・
児童員会の活動報告
- 2月 各委員会のまとめ・発表

その他

企画運営会議では、毎月活動状況の把握を実施。



平成28年度 宮前区地域自立支援協議会 年間活動報告

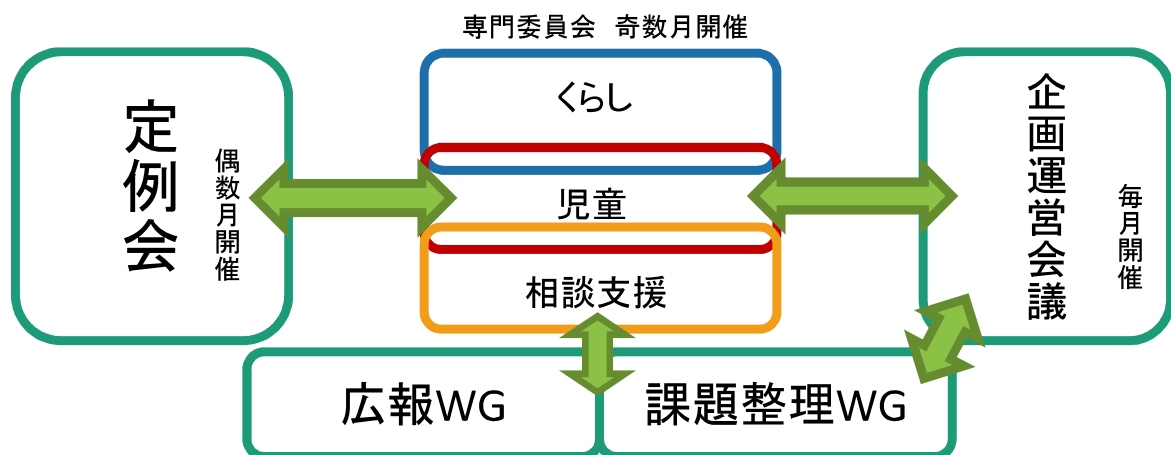
平成29年3月16日(木)

第3回 川崎市地域自立支援協議会全体会議

平成28年度 宮前区地域自立支援協議会の体制

長期目標 地域でつながり、みんなの暮らしやすさを広げる

短期目標 宮前区の今の地域資源や課題を知る



児童委員会の活動報告

活動目的

(障害児)子育て支援の情報収集と提供

長期目標

今まで情報が届かない人に情報を届ける

短期目標

今困っていることを吸い上げる

「ふれあいJr.NO4」の発行
小学生のお子さんを持つ保護者に向けた情報
居場所をみつけよう！～(放課後デイ、サークル等の情報提供)
10月24日(月) 地域支援講座開催
「学齢期のサポート ～子どもたちの育ちを一緒に考えましょう～」
講座終了後 個別相談対応の時間



講座のグループワークや個別相談
委員会でのグループワーク

個別
問題



個別の問題出し→分析

相談支援委員会の活動報告

活動目的

個別支援の中で、出てきた課題の解決

長期目標

協議会で取り組む相談支援の課題について整理する

短期目標

相談支援に関する課題を整理する

(委託の相談支援と区役所CWが日頃の相談支援活動から
問題と思うことを出し合っていく！)
テーマを決めて、問題出しからスタート。問題を整理し分析する。



テーマ
計画相談・一次相談
地域移行・医療・住まい



問題出し



整理・分析

くらし委員会の活動報告

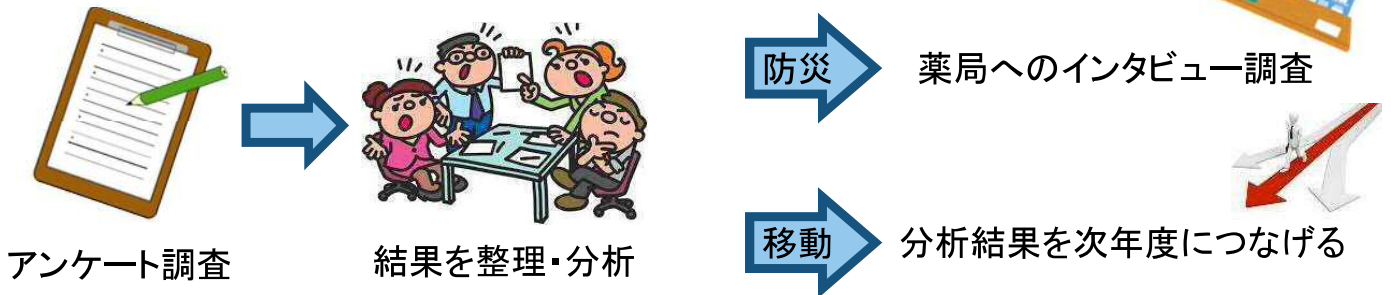
活動目的 障害がある人の暮らしづらさの解消に向けて取り組む

長期目標 地域の人々やサービスにつながない人にも役立つ情報を伝える

短期目標 「防災」と「移動」に関する現状を明らかにする

東名 高速道路
TOMEI EXPWY

・「防災」と「移動」の2つのグループに分かれて活動。



ワーキングの活動報告

広報

- 区ホームページの内容更新
- 情報紙「ほっととらいあんぐる」の発行
- 区協議会パンフレットの素案作成



課題整理

- 各委員会のアンケート結果や問題を分析した資料等の情報を基に課題整理→地域課題一覧表の更新

定例会の活動報告

長期目標 地域でつながり、みんなの暮らしやすさを広げる

短期目標 宮前区の今の地域資源や課題を知る

地域包括支援センターとの意見交換会(8月、2月の2回開催) * 左の画像
施設見学(まじわーる宮前、井田障害者センター) * 右の画像
専門委員会からの発信企画 ~「問題」と「課題」の違いについて~
「聞かせてみんなの暮らし」当事者(ろう者)との意見交換会 * 中央の画像



平成28年度の課題①(専門委員会)

課題

児童

・情報紙を発行した効果測定の方法 ・講座の目的や実施について検討 など

相談支援

・委員会メンバーの考え方 ・関係機関と協働の方法 など

くらし(移動)

・調査範囲や対象を拡大したアンケート調査の必要性 ・効果的な情報発信方法 など

くらし(防災)

・調査した内容のまとめと発信方法 ・薬以外のことへの取り組み など

次年度に向けて

児童 : 発達に心配のある保護者や教育機関・福祉事業所へ必要な情報を届け暮らしを応援していく。

相談支援 : 地域に対して相談支援センターの役割や機能を理解・活用してもらえるような具体的な取り組みを進めていく。

くらし(移動) : 移動に関する情報を収集し、活用できる形に整理し発信していく。

くらし(防災) : 調査や情報収集した内容を「日頃からの備え」等にまとめ、情報を発信していく。

平成28年度の課題②(ワーキング、定例会)

課題

広報

- 発行・印刷作業について
(印刷作業の負担、適正部数の確認・検討など)
- 位置づけ・作業内容について
(ワーキングの作業内容の確認、掛け持ちでの作業負担感など)
- 広報物内容について
(区協議会の情報発信不足など)

定例会

- ・定例会での協議時間の確保
- ・全構成員が共通認識を持つことの困難さ

多摩区地域自立支援協議会

平成29年3月16日
川崎市地域自立支援協議会第3回全体会議
於：市役所第3庁舎

28年度 多摩区地域自立支援協議会の目標

長期: さらに一步! 地域とのつながりを深める
(平成28年~29年度)

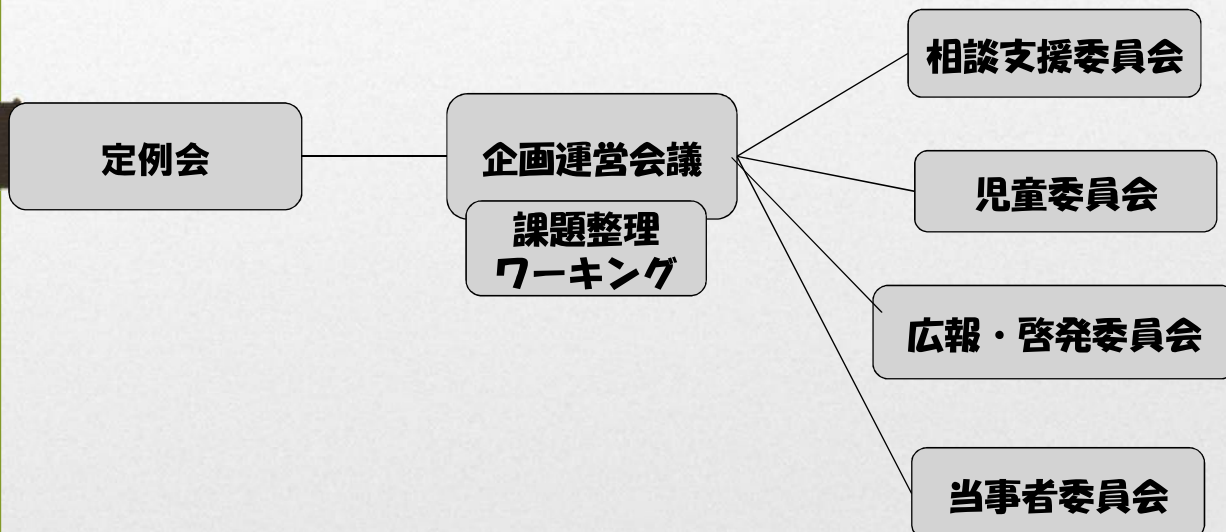
短期: たくさんの人と知り合おう!

⇒ 目標に対する取り組みや達成状況についてアンケート
配布。意見取りまとめ中。

平成28年度の活動体制

企画運営会議、各委員会は 月1回 開催。

定例会は 偶数月 開催。



広報啓発委員会

目標:協議会の活動と、地域のことかわかる広報紙を2回発行する。

各イベントでの広報活動の具体案を出す。

(地域のイベント、サークル活動の情報を集め、障がいのある方も参加出来るものについて情報発信する)



- ・広報紙たまネットの作成(秋と春の年2回)
- ・ホームページの管理、更新
- ・多摩ふれあいまつり、おたすけカードの印刷等

児童委員会

目標:きずなへの一步、子ども達を支える地域の仲間を増やそう!

(障害をもつ児童に対する支援の充実を図るため、関係機関とお互いの顔の見える、横のつながりかもてるように活動する)



・子ども達を支援している事業所のつどい(年2回実施)

相談支援委員会

目標:「多摩区、川崎市の相談支援を知り、連携する方法を考えていく」

(相談支援の質の向上を目指した活動)



・相談支援事業所のつどい(年2回)

当事者委員会

目標:各施設のバリアフリー状況の調査、
及びバリアフリーマップの作成
(当事者が出かけやすい地域の情報収集を行う)



バリアフリー状況の調査(かわさき宙と緑の科学館、せせらぎ館)

バリアフリーマップの作成準備

課題整理ワーキング

- 課題を抽出しやすいように書式を追加・変更
(委員会の活動内容報告書:取り組みに1枚作成
委員会会議録:困ったことなども記載)
- 課題提出票と各委員会からの報告書をもとに課題を
整理中

定例会

2か月に1回開催

グループ討議等

7月：「街で助けってもらってよかったこと、余計だった経験」

9月：「防災について考える(日頃からの備え)」

11月：「区地域自立支援協議会について考える」

とびこもう地域の中へ つながろう 麻生

麻生区地域自立支援協議会

平成29年3月16日

第3回川崎市地域自立支援協議会全体会議 報告資料



目標について

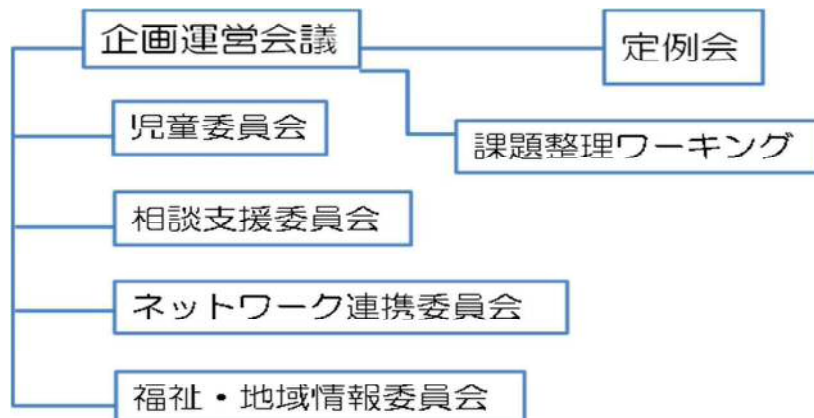
長期目標 「とびこもう地域の中へ つながろう麻生」

平成26年度～28年度で設定していたが、市協議会の長期目標設定に合わせ、29年度まで延長とする。

短期目標 「前年度の取り組みを深め、地域につなげる」

これまで平成28年度までの目標達成を目指してきたことから、各活動とも28年度の完結を目指していく。

組織図



児童委員会

1. 活動目的 「こどものえがお つながるあさお」
2. 長期目標 「児童及び児童にかかわる方々のニーズに応じた情報発信をする」
3. 各活動の短期目標 と実績

	短期目標	活動実績
出張相談	地域の障害があるお子さんをお持ちの家庭に対し、情報源の確保、発心を行う。	区内小中学校(17校)の校長会に出張相談の説明。学校への直接訪問による説明。今年度は学校から出張相談の依頼なし。
リーフレット	地域資源の利用時において、情報獲得の手掛かりになるものとして大成させる。	案は完成するも文言修正等に時間を要し、今年度発行に至らず。
ピアサポーター	重要な地域資源としての存続・活用。	北部地域療育センターに活動の場を移し、活躍の機会を広げた。計12名の保護者と話し合う機会を持った。
共生活動	ともに活動することで、地域の子ども、または地域の子ども、または地域住民の障害理解、受容につなげる。	区内事業所の企画を通じて地域の子どもと障害のある子どもとの交流機会を持つ予定であったが、天候不良により実施に至らず。

4. その他の活動 研修会「支えあう まちづくり」の開催を行う。 参加者52名。

5. まとめ・成果・課題

- ・地域とのつながりを少しずつ持つことができているが、目標達成には到達していない。
- ・構成員やつながり先の担当者が変わることで取り組みの継続が課題となっている。
- ・児童支援の関係機関等以外の意見、他の委員会との交流が必要。
- ・地域をテーマにした研修会は、更なるつながりを作るためにも必要。
- ・活動を行う中で、広報の重要性を再認識した。

福祉・地域情報委員会

1. 活動目的 「障害のある方や身近な人に、情報を届ける」
2. 長期目標 「つながろうカードをきっかけに地域への障害理解を深める」
3. 短期目標 「つながろうカードの配布先を、人が多く集まる場所や会議などに拡大する」

4. 活動実績

区保健福祉センター窓口、区内4か所の相談支援センターの連絡先が載った「つながろうカード」を2000作成。困りごとを抱えながら地域で暮らす方に相談先の情報を届ける活動を行った。

<配布先(予定含む)>

病院、クリニック、薬局、区役所、図書館、老人福祉センター、郵便局、金融機関、スーパー、大学、交番、駐在所、福祉事業所、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所、民生委員、福祉まつり…計97か所

5. まとめ

<課題>

- ・予算請求の関係で作成や配布に時間を要した。
- ・「障害」の言葉に抵抗を感じることはないようなデザインにしたが、逆にその趣旨や対象者が分かりにくいという意見もあった。

<成果>

- ・依頼先での設置、配布状況を確認するためのモニタリングを実施。
- ・カードを見て相談機関に連絡してきた人が確認できただけでも5名いた。
- ・委員自身が地域とのつながりを持ち、また協議会や障害の普及啓発となった。
- ・カードを通しての普及啓発はある程度達成したが、今後も配布を継続していく。
- ・カード以外の手法も検討していく。

ネットワーク連携委員会

1.活動目的

「障害のある人もない人も共に生きる社会をつくるため麻生区の福祉団体以外(企業や高校、大学等の教育機関)と連携できるようにつながりの方法や手段を考えていく」

2.長期目標

「地域に活動内容を発信しコラボレーションできる関係を目指す」

3.短期目標

「企業訪問インタビューと地域福祉交流講座の活動を通じて協議会の認知度を高め地域とつながる」

4.各活動の実績とまとめ

	企業訪問インタビュー	地域福祉交流講座
活動内容	麻生区及び周辺の、地域への社会貢献事業に取り組んでいる企業を訪問し、情報を頂き地域の皆さまと共有し、福祉意識の向上を図る。また共に出来ることを検討していく。	障害福祉への理解を深め「ともに生きる」ことについて考えてもらうきっかけとする。社会人や学生が参加しやすい夜間帯に開催する。
活動実績	・イーヨーカドー新百合ヶ丘店 ・ヴィレッジヴァンガード新百合ヶ丘OPA店 ・向ヶ丘自動車学校	・聴覚障害者の話(10月11日) ・視覚障害者の話(10月24日)
まとめ	お互いの情報共有や取り組み等を知ることができ、企業とつながり自立支援協議会の認知度も向上した。今後も聞き取りを継続するが、聞き取った内容をどのようにしてどのように広報するかが課題。	地域福祉交流講座については参加者のアンケートから、満足度の高い回答が得られた。しかし参加人数が少なく、広報をどのような方法で行うのか、誰を対象にするのか等が課題。

相談支援委員会

1. 活動目的 「麻生区内におけるより良い相談支援体制を作り出す」

2. 長期目標 「相談支援事業所の存在や取り組みを周知すること」

3. 短期目標 「相談支援に関する説明会の実施、及び課題の抽出を行い検証を行う」

4. 活動実績

4月からの活動開始当初は、相談支援事業所の存在や取り組みの周知の為、相談支援に関する説明会、それを通じた課題抽出、検討を行うとした。

検討の過程で、現状を把握することが優先との考えに軌道修正し、「相談支援センターを利用しておられる方の麻生区の相談支援体制の現状について客観的なご意見を伺う」という方向性のもと、相談支援センター利用者のアンケート実施することとなる。現在、内容を検討し、行政内で確認が行われているところである。対象者は計画相談支援対象者70名以上、一般相談支援対象者25名程度、児童相談支援20名程度としている。

5. まとめ

前半は委員会の取り組み内容の方向性を見出すことに費やされたが、そのことにより具体的な方向性を見出すことができた。

今後、アンケートの結果を集計し、現状の把握をしたうえで具体的な取り組み内容を決めていく。

課題整理ワーキング

1. 今年度活動計画

～11月	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度の未整理課題を課題提出票にまとめる。 ・28年度地域課題(問題)の整理。
12月～2月	課題提出票にまとめた地域課題(問題)を区協議会企画運営会議に提出。その内容を深め、解決方法を検討する。
3月	深められた地域課題を改善するための取り組み方法を決定する。

2. 現在の状況

26年度未整理課題、28年度地域課題(問題)を次の通り大まかなカテゴリーに分け、区協議会企画運営会議に提出したが、内容を深める取り組みには至らず。

理由は29年度の区協議会の全体的取り組みの検討に時間を要したため。

＜抽出されたカテゴリー＞

1. 児童期 2. 区民の障害理解 3. 福祉情報 4. 相談支援 5. 社会資源
6. 災害時の支援

3. 29年度の取り組み(現在検討中)

月1回定例会の場でカテゴリーの内容を詳細に検討するグループ討議を実施し、地域課題として整理する。整理された内容をもとに具体的な取り組み(委員会設置等)につなげていく。

今年度まとめ・29年度取り組みの方向性

1. 全体で出来たこと

- ・地域課題を整理して、委員会を立ち上げることができた。
- ・どの委員会でも、地域に目を向ける意識を持ち、つながろうとする姿勢が見られた。
- ・年間目標や活動計画を立て、それを意識して取り組むことができた。

2. 課題と感じていること

	課題	29年度の方向性
専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ① 実働人数が少ない、取り組む内容が多すぎる、異動等による構成員の変動。→目標に達しきれない ② 委員会同志の人事交流、共通に取り組める内容の取扱い。 ③ 区役所、基幹相談支援センターの役割の不明確さ。等 	<ul style="list-style-type: none"> ① 活動力に見合った計画的な委員会活動の実施。 ② 長期目標終結に向けた総括的な取り組みの実施。 ③ 区役所、基幹相談支援センター、委員会の役割の明確化。 ④ 委員会間の共通テーマへの協働。等
区協議会の広報	<ul style="list-style-type: none"> ① 区協議会自体を知ってもらえることの必要性。 ② イベント参加等の準備の時間のなさ。等 	<ul style="list-style-type: none"> ① これまでに関わった団体、企業、学校等とのかかわりを活かす。 ② のぼり、看板、グッズ等の活用。 ③ 早期の担当者選定。等
研修	<ul style="list-style-type: none"> ① 参加者の少なさ。 ② 各委員会による研修企画の負担の大きさ。取り組みに時間がかかる→準備期間が足りない。 ③ 地域とつながる内容の研修の継続の必要性。等 	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的、効果、対象者→計画的な企画検討の実施。 ② 一部宣伝方法のマニュアル化。 ③ 委員会独自の企画に問題→区協議会全体としての取り組みの必要性。等
その他	<ul style="list-style-type: none"> ① 定例会→報告だけでない、意見交換が活発に行える場づくり。 ② 企画運営会議→十分な会議時間の設定をする。 ③ 情報保障→支障なく会議に参加できるよう、会議資料の事前に送付する。 	



ご清聴ありがとうございました...

平成28年度 川崎市地域自立支援協議会 各区協議会 共通専門委員会(児童委員会)活動報告一覧

平成29年2月現在

	目標内容		活動報告	次年度の方向性
	長期目標	短期目標		
川崎区	教育機関等との情報共有	支援者への情報発信	・平成27年度からの継続取り組みとして、「川崎区障害児支援機関一覧表」の発行に向けて活動。12月より手渡しや郵送等により関係機関への配布を行った。	長期目標でもある「教育機関等との情報共有」や今年度の意見交換会で抽出された課題を基に、年度内にまとめる予定。
幸区	・幸区内特別支援教育コーディネーターとの連携 ・父親同士が語り合える場を設定し、つながりを作る	・幸区内教育関係者への発信 ・父親が子どもと気軽に参加できる場を設定し、父子の触れ合う機会を作る	9月:施設見学会(障害者福祉施設たじま) 11月:「父子で楽しむふれあいサッカー教室」 2月:区内中学校の通級指導教室見学、先生との意見交換 3月(予定):施設見学会(就労移行支援事業所)	・今年度の活動を基本に、父親同士が語り合える場の設定、横のつながりを持てるようにする ・学期における学校と福祉の連携のできることの検討
中原区	つながる、広がる、支え合う	中原区内の配慮の必要な子どもたちの放課後を知る	9月12日(月) 第1回中原区放課後等デイサービス事業所連絡会開催。 10月17日(月)第2回中原区放課後等デイサービス事業所連絡会開催。 11月5日(土) 中原区健康・福祉まつりでパネル展示等を通じて、中原区の配慮の必要な児童が利用可能な制度や関係機関等の広報・周知活動を実施。	配慮の必要な児童と保護者が利用可能な制度や関係機関の広報・周知活動を継続する。放課後等デイ連絡会の役割を検証・発展させながら、中原区内の児童に関わる関係機関の連携を強化していく
高津区	より良い療育の為のネットワークづくりを目指す	高津区内にある児童発達支援事業所や放課後等デイサービスと定期的な交流の機会をめざし、ネットワークを構築する	11月放課後等デイサービス事業所との交流会 1月放課後等デイサービス事業所との交流会	次年度も継続して放課後等デイサービス事業所との交流会を実施する。
宮前区	今まで情報が届いていない人に情報を届ける。	今困っていることを吸い上げる。	10月24日(月)地域支援講座「学齢期のサポート ～子どもたちの育ちと一緒に考えよう～」を開催。 2月:ふれあいJr. No4 発行。小学生のお子さんを持つ保護者に向けた情報「居場所をみつけよう!(放課後デイ、サークル等の情報提供) 2、3月:児童に関する問題出し、整理・分析を実施。	発達に心配のある児童の保護者・学校・放課後等デイサービス・福祉事業所へ必要な情報を届け暮らしを応援していく。
多摩区		きずなへの一歩。子どもたちを支える地域の仲間を増やそう!	27年度より開催している「子ども達を支援している事業所の集い」を2回開催。学校教育と放課後等デイの支援者間で顔の見える関係を構築することを目的に7月は、各事業所における課題や現状についてグループ討議。1月は、わくわくプラザにも声をかけて実施、前段は、発達障害児の支援についての講義、後半は学齢時、障害児支援の課題についてグループ討議を行った。	集いの継続。取り組み課題については検討中。
麻生区	児童及び児童にかかわる方々のニーズに応じた情報発信をする	・出張相談「地域の障害があるお子さんをお持ちの家庭に対し、情報源の確保、発信を行う」・リーフレット「地域資源の利用時において、情報獲得の手がかりになるものとして大成させる」・ピアサポーター「重要な社会資源としての存続、活用」・共生活動「ともに活動することで、地域の子ども、または地域住民の障害理解、受容につなげる」	・出張相談…小中学校長会で案内後、区内各校に回って宣伝を行ったが、今年度希望校なし。・リーフレット…案完成するが、再度の修正の必要の指摘があり、完成せず。・ピアサポーター…活動場所を北部療育センターに移した。計12名の保護者と話し合う機会が取れた。・共生活動…委員所属事業所で行っている日中一時支援の場で交流会を企画したが、天候不良により実施に至らず。・その他…研修会「支えあうまちづくり」11月4日実施。15名の参加。	地域とのつながりは少しずつ持てるようになったが、目標達成には至っていない。引き続き活動を継続するが、これまでの活動を振り返り、取り組みに一定の目途をつけていく。

平成28年度 川崎市地域自立支援協議会 各区協議会 共通専門委員会(相談支援委員会)活動報告一覧

平成29年2月現在

	目標内容		活動報告	次年度の方向性
	長期目標	短期目標		
川崎区	つながり上手になる	事例を通じてつながり方を共有する	・各分野からの事例紹介の実施～具体例を通して繋がりを考えていく～事例検討で、繋がりがうまくいった場合、難しかった場合の紹介を行った。 8月：関係機関の多いケース 10月：専門機関、行政、児童、相談支援センターのケース 12月：就労系、相談支援センターのケース	課題として挙げられている事項を含め、今後の方向性及び取り組み事項について、年度内にまとめる予定。
幸区	・地域の相談支援の在り方を検討して、相談支援のネットワークを作る	・幸区内や近隣区域の相談支援事業の実情を知る	9月：新規開設の指定特定相談支援事業所訪問 10月：委託相談支援センター意見交換会 1月：指定特定相談支援事業所との意見交換会 2月：障害児相談支援(計画相談)の勉強会	今年度取り組んだ内容を基に課題を明らかにし、質・計画書の内容、量・計画書作成数、ネットワーク：計画相談に関わる事業所間の連携を促進させていく
中原区	中原区内の相談支援体制の標準化をめざす	事例を通して相談支援従事者の関わり方(姿勢)を検証する	相談支援体制の標準化をめざし、また「それぞれの立場から相談支援とは何かを考える」ことを目的に、事例検討を実施してきた。その過程で、児童期から成人期への移行時に支援が途切れたり、つながらないことが課題となり、児童相談所や地域みまもり支援センター等との連携が課題になった。	ライフステージ等の移行時に支援機関のスムーズな移行が行えるよう、基礎情報用紙等を作成し、関係機関のケース情報の共有に役立てていく
高津区	地域移行・地域定着の促進をはかる	高津区での地域移行・地域定着の実情を知る	11月ハートフル川崎病院とピアたちばなの合同主催による食事会への参加 2月 東京都三鷹市巣立ち会のメンバーを招き、講演会	「知る、知らせる、理解する」に照らし合わせ、来年度は高津区での地域移行支援の実情を知る、理解するための施策について考えられる機会を作る。(精神保健福祉センターの取り組みについて学ぶ等)
宮前区	協議会で取り組む相談支援の課題について整理する。	相談支援に関する課題を整理する。	相談支援に関する課題について、テーマを設定し抽出し整理・分析を実施。 9月：「計画相談」「1次相談」をテーマにグループワーク 10月：「防災」「医療」「地域移行」「住まい」をテーマにグループワーク 11月：「児童」「移動」をテーマにグループワーク	今年度取り組んだ内容を基に、整理した課題から具体的な解決への取り組みを決める。また、解決の過程を見える形にまとめていく。また、構成員など、相談支援について広く理解してもらえるような取り組みを進めていく。
多摩区		多摩区、川崎市の相談支援を知り、連携する方法を考えていく	多摩区内相談支援事業所の集いを10月と2月に実施。委託相談支援事業所と指定特定相談支援事業所、行政、委員会構成員とで行う。相談支援の現状や問題点などを共有し連携していく1回目は、各々の事業所の実情を意見交換し顔が見える関係を目指した。2回目は、1回目のアンケートを踏まえて内容を決めて実施した。	事業所の集いの継続。その他の課題については、整理して取り組み内容を決める予定。
麻生区	相談支援事業所の存在や取り組みを周知すること。	相談支援に関する説明会の実施、及び課題の抽出を行い検証を行う。	左記の短期目標の設定を変更し、まずは麻生区内の相談支援に関する課題を確認し、その後改めて課題設定を行うことを目的に、相談支援利用者向けのアンケートを実施していくこととなる。現在質問用紙を作成したところであり、今後相談支援センターから相談支援契約を締結している人(約120名)に対し実施していく予定。	アンケートの結果を集計し、現状の把握をしたうえで具体的な取り組み内容を決めていく。